

# 令和7年度組織目標



森里湖に育まれる 漁業と農業が織りなす  
**琵琶湖システム**

<b>所属名</b>	<b>農政水産部</b>
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○世界農業遺産「琵琶湖システム」の活用</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界農業遺産「琵琶湖システム」の体感機会・魅力発信の拡大による滋賀の農業・水産業のファン拡大に取り組む                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国スポ・障スポ」や「世界湖沼の日」、「大阪・関西万博」の関連行事の場を活用した「琵琶湖システム」の価値や魅力の発信 10回以上</li> <li>・産・学・官連携による県産食材を活用したメニューブックの開発</li> <li>・琵琶湖システムInstagramフォロワー数 4,200人以上</li> <li>・びわ湖魚グルメへの参加 50事業者以上</li> </ul> </li> </ul>
	<p>○日本有数の米どころとしての躍進・園芸の億円産地づくり</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近江米生産・流通ビジョンの策定（近江米振興協会）</li> <li>・「オーガニックきらみずき」を高価格帯で販売する首都圏等での販路開拓と生産拡大 収量360kg以上/10aを確保（プロジェクトほ場：6地域）</li> <li>・園芸特産振興指針の策定（野菜、果樹、花き、茶）</li> <li>・みおしずくの出荷型産地の育成 R6:1.4ha(見込み)→R7:2.0ha</li> <li>・地場農産物を学校給食へ安定して届ける地域内流通のモデルづくり</li> </ul>
	<p>○みらいの本県農業を担う農業法人等の育成</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域計画をベースとした広域での農地集積・集約化への着手6地区</li> <li>・農業大学の充実および農業高校との連携強化の具体策のとりまとめ（農業高校→農業大学→農業法人のルート強化）</li> <li>・企業の農業参入支援と集落営農組織の活性化のあり方のとりまとめ</li> <li>・女性の認定農業者等の確保 R5:64人 → R7:70人</li> </ul>
	<p>○近江牛のブランド力の向上と魅力発信（“三方よしの近江牛”の推進）</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「牛よし」「人よし」「社会よし」の取組を推進</li> <li>・“三方よしの近江牛”のPR支援や、近江牛の評価・ニーズを把握する消費者アンケート等を生産・流通団体等と連携して実施</li> </ul> <p>PR取組団体数：5団体、消費者アンケート：10月・500人</p>
	<p>○琵琶湖の環境変化に応じた水産資源の確保に向けた対策の強化</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水温や餌環境の点から現在の琵琶湖の水産資源を育む力（＝漁場生産力）を評価し、この回復手法を検討する試験研究に着手</li> <li>・対策が急務であるアユについては、次の取組を実施                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動リスクを軽減するため、人工河川からの仔魚の流下時期を遅らせるとともに時期を分散</li> <li>・知内川など産卵河川の河床耕耘により天然再生産を促す</li> </ul> </li> </ul> <p>需要が高まる12月の鮎苗注水量に対する供給率 … 100%</p>

○農業所得の向上を実現する生産基盤整備の推進

- 目標：
- ・農業の高付加価値化やスマート農業の導入が可能となる農地整備により、担い手の経営環境と所得の向上を目指す
- 新規着手する集落数：累計166集落（R6：134）

○集落の力と多様な主体との連携・協働による中山間振興

- 目標：
- ・多様な主体との連携・協働により地域資源を活用した取組拡大  
累計地区数：33地区（R6：28地区）
  - ・棚田ボランティアの年間参加延べ人数の拡大  
490人（R6：425人）
  - ・多様な主体との連携・協働を図る「しがのふるさと支え合いプロジェクト」をさらに深化・拡大させる仕組みを構築

○CO<sub>2</sub>ネットゼロに資するバイオマス利活用の推進

- 目標：
- ・農政水産部におけるCO<sub>2</sub>ネットゼロを推進するため、バイオマス利活用の取組を支援する
  - ・エネルギー作物の生育調査による栽培管理支援および収穫物の農業用暖房への活用検討
  - ・バイオガスプラントの設置準備およびバイオ堆肥を活用した農業振興にかかる支援

所属名	農政課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○世界農業遺産「琵琶湖システム」の活用</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界農業遺産「琵琶湖システム」の体感機会・魅力発信の拡大による滋賀の農業・水産業のファン拡大に取り組む</li> <li>・「国スポ・障スポ」や「世界湖沼の日」、「大阪・関西万博」の関連行事の場を活用した「琵琶湖システム」の価値や魅力の発信 10回以上</li> <li>・産・学・官連携による県産食材を活用したメニューブックの開発</li> <li>・琵琶湖システムInstagramフォロワー数 4,200人以上</li> <li>・びわ湖魚グルメへの参加 50事業者以上</li> </ul>
	<p>○次期「滋賀県農業・水産業基本計画」の策定に向けた取組</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度取組（意見交換やアンケート結果）を活かし、次期「滋賀県農業・水産業基本計画」を策定する</li> <li>・わかりやすい公表資料の作成</li> <li>・基本計画の策定（3月）</li> </ul>
	<p>○CO2ネットゼロに資するバイオマス利活用の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農政水産部におけるCO2ネットゼロを推進するため、バイオマス利活用の取組を支援する</li> <li>・エネルギー作物の生育調査による栽培管理支援および収穫物の農業用暖房への活用検討</li> <li>・バイオガスプラントの設置準備およびバイオ堆肥を活用した農業振興にかかる支援</li> </ul>
	<p>○【見直し・効率化】部次長スケジュールの電子化</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部次長日程の予約・調整においてエントリーシートの活用を徹底し、スケジュールにシートを添付することで、行事内容の迅速かつ正確な把握と共有を図る</li> </ul>

所属名	みらいの農業振興課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○日本有数の米どころとしてのさらなる躍進（西日本一へ）</p> <p>・近江米生産・流通ビジョンの策定（近江米振興協会） 環境変化と多様なニーズに対応できるよう米の生産力を維持・向上し、生産額の最大化を図る取組への方針として改訂</p> <p>・「オーガニックきらみずき」を高価格帯で販売する首都圏等での販路開拓と生産拡大【オーガニックはCO<sub>2</sub>ネットゼロに貢献】 収量360kg以上/10aを確保（プロジェクトほ場：6地域） 生産拡大・販売計画の具体化</p> <p>・酒米新品種について、現地栽培試験・醸造試験結果を踏まえ命名、品種登録(R8:種子生産、R9~:一般栽培)</p>
	<p>○都市近郊の強みを生かす園芸の億円産地づくり</p> <p>・園芸特産振興指針の策定（野菜、果樹、花き、茶）</p> <p>・みおしずくの出荷型産地の育成 R6:1.4ha(見込み)→R7:2.0ha (湖北でのクラスター形成を含む)</p> <p>・地場農産物を学校給食へ安定して届ける地域内流通のモデルづくり</p> <p>・おいしがうれしがキャンペーン登録事業者数（生産者を除く） R6:1,205事業者 →R7:1,255事業者</p>
	<p>○県産農畜水産物を世界へ</p> <p>・滋賀県農畜水産物等輸出促進協議会による「輸出戦略」の策定 品目・ターゲット国の選定、目標金額等の設定等</p>
	<p>○みらいの本県農業を担う農業法人等の育成</p> <p>・地域計画をベースとした広域での農地集積・集約化への着手6地区</p> <p>・農業大学校の充実および農業高校との連携強化の具体策のとりまとめ (農業高校→農業大学校→農業法人のルート強化)</p> <p>・企業の農業参入支援と集落営農組織の活性化のあり方のとりまとめ</p> <p>・女性の認定農業者等の確保 R5:64人 → R7:70人</p>
	<p>○【見直し・効率化】より効果的な普及活動の実施に向けて</p> <p>・協同農業普及事業の実施に関する方針の策定 (攻めの農業振興に向けた効果的な普及活動)</p>

所属名	畜産課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○近江牛のブランド力の向上と魅力発信（“三方よしの近江牛”の推進）</p> <p>目標： ・牛を大切に育てる「牛よし」、安全・安心で高品質に育てる「人よし」、環境へ配慮して育てる「社会よし」の取組を推進し、“三方よしの近江牛”のPR支援や、近江牛の評価・ニーズを把握する消費者アンケートの実施など、生産・流通団体等と連携してブランド力向上に取り組む PR取組団体数：5団体、消費者アンケート：10月・500人</p>
	<p>○生産基盤の強化と物価高騰等に対する畜産経営の支援</p> <p>目標： ・キャトル・ステーションの円滑な運営と近江牛の地域内一貫生産の推進 導入頭数：263頭 販売頭数：250頭 ・生産性向上や生産コスト低減による経営強化・改善への取組推進 取組農家数：115戸</p>
	<p>○家畜伝染病に係る危機管理体制の強化</p> <p>目標： ・高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病の発生予防と発生時の迅速な防疫対応に向けた体制整備の充実強化に関係者と連携して取り組む</p>
	<p>○滋賀食肉センターのあり方見直し</p> <p>目標： ・令和9年度を目途とした、新たな運営スキーム、公平・公正な取引ルール等に基づくセンターの運営開始に向けた関係者との対話の推進</p>
	<p>○【見直し・効率化】協議の効率化</p> <p>目標： ・協議資料は可能な限り事前配付とし、議論からのスタートに努める。メリハリのある業務遂行のため、的確な指示と助言に努める。</p>

所属名	水産課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○琵琶湖の環境変化に応じた水産資源の確保に向けた対策の強化</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水温や餌環境の点から現在の琵琶湖の水産資源を育む力（＝漁場生産力）を評価し、この回復手法を検討する試験研究に着手する。特に対策が急務であるアユについては、「漁獲の状況」、「漁業者の声」や「資源の状況」を注視しながら、人工河川からの仔魚の流下時期を遅らせるとともに時期を分散させる等、気候変動リスクを軽減する運用のほか、知内川など産卵河川の河床耕耘により天然再生産を促すこと等を今年度から実施する。</li> </ul> <p>需要が高まる12月の鮎苗注文量に対する供給率 … 100%</p>
	<p>○琵琶湖漁業の生産額向上に資する新たな養殖技術の開発</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・琵琶湖漁業における新たな収入基盤の創出に向け、「琵琶湖産養殖ビワマス」のブランド確立を目指す第一歩として、湖中でビワマスを養殖する新たな技術の検証に着手する。今年度より、小割生け簀を用いて1,000尾規模で6か月間の試験飼育に挑戦する。</li> </ul>
	<p>○若者・子育て世代が湖魚に親しんで味わう機会の創出</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで取り組んできた学校給食への湖魚食材の提供に加え、大学・企業の食堂等に対する湖魚の魅力情報発信と食材提供を行うとともに、美味しく親しみやすい名称のメニュー開発を促すなど、日常的に湖魚を食べる暮らしが見直されるよう取り組んでいく。</li> </ul> <p>湖魚食材を食堂等で提供する大学・企業 … 10校/社・回</p>
	<p>○【見直し・効率化】迅速な資源評価に基づく水産資源管理の高度化</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁獲情報システム「湖レコ」による漁獲報告を全報告件数の5割に拡大し、最新の漁獲情報を活用した資源評価を迅速に行うことで、漁業者の適切な資源管理を推進するとともに、業務効率化を図る。</li> </ul> <p>「湖レコ」による漁獲報告割合 … R6: 35%（湖レコ4,466件/全報告12,941件） → R7: 50%</p>

所属名	耕地課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○農業所得の向上を実現する生産基盤整備の推進</p> <p>目標： ・ 農業の高付加価値化やスマート農業の導入が可能となる農地整備により、担い手の経営環境と所得の向上を目指す 新規着手する集落数：累計166集落（R6：134）</p>
	<p>○地域農業の発展を支える農業水利施設アセットマネジメントの推進</p> <p>目標： ・ 農業用水を適正に配分するための監視・制御設備の整備やエネルギー効率を向上させるインバータ制御の導入など、CO2削減にも資する施設の保全更新に着手する農用地面積 累計36,600ha（R6：30,920）</p>
	<p>○地域と連携した農業水利施設の保全（水土里ビジョン）の推進</p> <p>目標： ・ 地域と連携して農業水利施設の保全（水土里ビジョン）の協議に着手する土地改良区数 協議に着手する改良区数：12改良区</p>
	<p>○【見直し・効率化】クラウドサービスを活用した事務のDX化（※農村振興課と共通）</p> <p>目標： ・ クラウドサービスを活用して事業や工事等にかかる各種情報のデータを集約し、出先機関と共有し事務の効率化を図る</p>

所属名	農村振興課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○集落の力と多様な主体との連携・協働による中山間振興</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な主体との連携・協働により地域資源を活用した取組拡大 累計地区数：33地区（R6：28地区）</li> <li>・棚田ボランティアの年間参加延べ人数の拡大 490人（R6：425人）</li> <li>・多様な主体との連携・協働を図る「しがのふるさと支え合いプロジェクト」をさらに深化・拡大させる仕組みを構築</li> </ul>
	<p>○世界農業遺産の活用による魚のゆりかご水田の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魚のゆりかご水田の取組地区（R8取組地区）の拡大 20地区（R7取組地区：17地区）</li> <li>・旅行・宿泊事業者等に魅力を体感してもらう機会の提供を通じ、魚のゆりかご水田を観光コンテンツ化する地区数 2地区</li> </ul>
	<p>○農村地域における再生可能エネルギーの地産地消の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2ネットゼロヴィレッジの実現を目指して農村地域の住民が主体となり、再生可能エネルギーの地産地消を通じた地域活性化の推進 累計取組地区数：計4地区（R6：計2地区）</li> </ul>
	<p>○災害に強い農村地域づくりに向けた総合的な防災・減災対策の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「滋賀県ため池中長期整備計画」に基づくため池防災工事の加速的な推進 「防災重点農業用ため池」の改修や廃止工事の着手数 9箇所（R6末：44箇所）</li> </ul>
	<p>○【見直し・効率化】クラウドサービスを活用した事務のDX化（※耕地課と共通）</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドサービスを活用して事業や工事等にかかる各種情報のデータを集約し、出先機関と共有し事務の効率化を図る</li> </ul>